



Musicology and Theatre Studies 音楽学・演劇学専修

この専修では、音楽、演劇、芸能などのいわゆる表演芸術（パフォーミング・アーツ）の研究が行われています。音楽学の分野では、世界諸地域の芸術音楽、伝統音楽、大衆音楽などの幅広い領域にわたって、音現象そのものの研究にとどまらず、それぞれの背景にある文化や思想の研究も含む幅広い研究が展開されています。演劇学の分野では、日本の古典演劇から西洋の現代演劇までの、狭い意味での演劇ばかりでなく、世界各国の映画、オペラ、ミュージカル、ダンス、そして芸能を含む幅広い対象を扱っており、それらの実証的かつ理論的な考察を通して、その芸術の美的特質や芸術史的、民族的特徴を理解し、さらにパフォーマンスの原理や本質を解明する試みがなされています。これらの領域を対象として扱っている大学の文学部は他にほとんどなく、本専修はこれらを人文学の一環として研究することのできる数少ない場所となっています。

音楽や演劇の研究をする上で、実演の経験は必須ではありません。でも、観客として対象をみるだけではもったいないので、どういう立場であれ、なんらかの「現場」に深く関わる意欲を持った学生を歓迎します。

<https://musicologyosaka.wordpress.com>（音楽学）

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/theatre>（演劇学）

教員

永田 靖 教授	ながた・やすし
伊東信宏 教授	いとう・のぶひろ
輪島裕介 准教授	わじま・ゆうすけ
中尾 薫 准教授	なかお・かおる
古後奈緒子 准教授	こご・なおこ

どんな授業があるの？

【講義題目】

多文化主義と演劇
能に描かれた「異類」を考える
ピアノとピアノ音楽の歴史
大阪からみた近代日本大衆音楽史

【演習題目】

観劇実習
論文作成の方法と実践
音楽学の主題、資料、方法
ポピュラー音楽研究日本語文献講読

何を学んでいるの？

演劇学入門

演劇は古代ギリシャ以来、およそ2500年の歴史を持ちます。古代ギリシャ悲劇からコメディア・デラルデ、シェークスピアを経て、イブセン、チェーホフなどのモダン・ドラマ、そして多様な現代演劇に至る流れを理解します。またこの授業では、能、歌舞伎などの日本演劇の歴史も同時に学んで、世界の演劇との共通点や違いについても理解していきます。

音楽学

ロマ（ジプシー）は、音楽に關係の深い民族として、しばしば伝説や説話の中で取り上げられ、舞台や音楽作品の題材となってきました。それらを多角的にとらえ、音楽について調べ、考える手法を学びます。

教員が選ぶ印象に残った卒業論文

写し絵の独自性に関する研究

一大阪における錦影絵の特徴に着目して一

錦影絵について、大阪歴史博物館所蔵の現物を詳細に調査し、その物語性、演劇性、興行の形態を明らかにした興味深い論文。（選：永田 靖 教授）

J-popにおけるクロスジェンダーパフォーマンス

性別交差歌唱（男性歌手が「女の真心」を歌う、女性歌手が「男の心意気」を歌う、など）は、かつての流行歌の常套手段だが、現代のJ-pop やロックにもみられる。欧米圏ではあまりみられないこの現象について、的確に先行研究を参照し、その現代的展開と社会的・文化的含意を探求する。（選：伊東信宏 教授）

【卒業論文題目】

唐十郎作『ジョン・シルバー』論
劇団「ク・ナウカ」の二人一役
—『エレクトラ』（1997）を中心に—
長谷川伸における家庭の表象
—昭和3年～6年の「股旅物」を中心に—
能《小鍛冶》をめぐる諸問題
—刀剣「小狐」伝説の系譜整理を中心に—
権力を上演する君主
日本におけるニューメタル
カヴァーソングを用いたテレビ・コマーシャルの研究能

「音楽が好き！」から、その先へ。

音楽学 学生 インタビュー

どのような研究をしていますか？

日本の大衆音楽史が専門で、現在は90年代のムーブメント「渋谷系」について研究しています。楽曲そのものだけでなく、地理的・歴史的・経済的背景や同時代のポップカルチャーも視野に入れながら「ニッポンの音楽」って何だ？という問いを日々考えています。

研究室の雰囲気は？

学部生から院生まで垣根を越えて交流できるのが最大の魅力です。質問をしてみるもよし、雑談に花を咲かせてもよし。

未来の後輩達へのメッセージ

楽譜が読めない、楽器が弾けない……なんて心配は無用。「音楽が好き！」という思いがあれば、それだけで大歓迎です。

どのような研究をしていますか？

ルネサンス期のイタリアにおける祝祭について調べています。卒業論文では16世紀に行われたフィレンツェのメディチ家の婚礼を対象に選びました。

研究室の雰囲気は？

自分が存在すら知らなかったことについて研究している人がたくさんいて、興味の幅をどんどん広げることができます。また、学部生でも研究室に出入りしやすい雰囲気があります。

未来の後輩達へのメッセージ

総合大学で音楽について研究できる、数少ない場所の一つです。音楽について知りたい、調べてみたいと思っている方をお待ちしています。

どのような研究をしていますか？

モンゴル国の民俗音楽について研究しています。中でも、モンゴル国の社会主義時代の音楽環境の変化と横笛リンベの音楽について研究しています。

研究室の雰囲気は？

お互いに分からないことを相談しあい、仲が良い楽しい研究室です。西洋音楽、民族音楽、大衆音楽などさまざまな研究をしている人がいるので、自分の研究以外の世界を知ることができ素晴らしいです。

未来の後輩達へのメッセージ

私はモンゴル国と中国の大学を卒業後、長年演奏家として活動した後、入学しました。社会人と研究を両立している人もいますので、ぜひ一緒に研究しましょう。



K.K. (博士前期課程)



K.K. (学部生)



M.S. (博士前期課程)

古今東西の様々なジャンルの演劇を多様なアプローチで研究します。

演劇学 学生 インタビュー

お勧めの講義はありますか？

観劇実習という演習では、実際に劇場に足を運び演劇を見ます。演目は、伝統芸能から現代劇まで幅広いので、今まで見たことがなかった演劇を知る良い機会なのでおすすめです。また、ここで得られる豊かな観劇経験は、その後の研究に役立つと思います。

どのような研究ができますか？

私は宝塚歌劇団の海外公演について研究しています。阪大は宝塚の資料が集まる池田文庫へのアクセスが良く宝塚研究にぴったりです。演劇は、演出家、俳優、劇団、戯曲、演出、上演、受容など多くの要素をもつ総合的なものなので、興味に合わせていろんな研究ができると思います。

研究室はどんな雰囲気ですか？

和やかな雰囲気です。とても居心地がよくて、授業の空き時間など、「研究室でのんびりしよう」という気分になります。みんな自由にくらっと研究室にやってきて、ご飯を食べたり、おしゃべりしたり、もちろん、自分の研究に取り組んでいます。

未来の後輩に向けてメッセージをどうぞ

大学の勉強の醍醐味は、自分の好きなことを研究対象にできることです。演劇学はまだ新しい学分野で、自由な興味で学問領域を開拓する面白みがあります。少しでも演劇に興味があるなら、ぜひ演劇学研究室を尋ねてみてください。

なぜ演劇について学びと思ったのですか？

幼い時からミュージカルや歌舞伎、狂言などの舞台芸術に触れる機会があったため、演劇は身近な存在でした。同時に、宗教や社会問題、政治経済、アイデンティティについての事柄など、幅広い分野に興味がありました。演劇作品の内部や外部を研究することで、演劇を通して様々な分野を横断的に考えることができると思い、選択しました。現在興味を持っている研究対象は何ですか？

現在はスコットランドの現代演劇について研究しています。国家や社会のあり方が揺れ動く中で、演劇をはじめとしたアートがどのようにそれに向き合っているのか考えることができ、興味深いです。



O.M. (学部生)



M.S. (博士前期課程)



M.F. (博士前期課程)